

令和5年度 安芸市立伊尾木小学校 学校評価書及び学校関係者評価書

安芸市立伊尾木小学校									
◎学校教育目標 「豊かな心を持ち、共に学び合う、元気でたくましい伊尾木っ子の育成」									
【評価基準】 A：十分満足（85%以上） B：おおむね満足（70～85%未満） C：もう少し努力すべき（55～70%未満） D：大いに努力が必要（55%未満）									
項目	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目	達成基準	達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
確かな学力・指導力の向上	確かな学力を身につけさせる授業づくりの推進 ① 各種学力調査：全国平均（県版では県平均）+3.0P以上（算数は+8.0P）以上 ② 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びが実現している（質問紙の肯定的回答が全国以上になっている） ③ タブレット端末を利用して、個別学習や協働学習の充実を図っている	○各種学力調査（全国学力調査、県学力定着状況調査、安芸市版学力調査）において全国（県）並みの学力が身につけている	○算数単元テスト、チャレンジタイム、放課後加力学習等を活用して基礎学力定着への取り組み ⇒各種学力調査（全国学力調査、県学力定着状況調査、安芸市版学力調査）	○単元テスト：県設定正答率のクリア100% ⇒各種学力調査（全国学力調査、県学力定着状況調査、安芸市版学力調査） 国語（全国（県）平均） 算数（全国（県）平均+3） 理科（全国（県）平均+3）	○単元テスト基本問題の件設定正答率クリア100% ○全国学力・学習状況調査 国語全国平均並み 算数全国平均+3P以上 ○安芸市学力調査 国語 全国（市）平均以上は4学年 算数 全国（市）平均+3P以上は4学年 理科（4年のみ） 市平均を下回る ○高知県学力定着状況調査 国語 昨年度目標値以上は5年 算数 昨年度目標値+3P以上は4年（5年は+2.6P） 理科（5年のみ） 昨年度目標値+3P以上	B	①複式授業スタンダードの徹底と学習リーダーを活用した授業づくり→目指す授業イメージの共有と統一した継続的な指導 ②思考プロセスを身につけさせる授業実践→既習事項を活用し問題解決できる力を高める。 ③ 考えを書く活動→ホワイトボード、タブレット等を使って言語活動や練り上げを充実させ、協働的な学びを深める。	タブレットの整備状況、使用状況について質問があった。 マウスがあったほうが操作しやすいのではないだろうかという意見が出されたが、一人一人にマウスは貸与されていることを説明した。	B
		○主体的・対話的で深い学び実現しつつある（質問紙の肯定的回答が全国以上になっている）	○見方・考え方や思考プロセスに重点を置いた指導や授業づくり ○伊尾木小学校スタンダードの徹底 ○学習リーダーの育成と間接指導の工夫 ○発問の工夫とメタ認知の育成 ○反省的思考や自己評価を促す振り返りの工夫 ○算数科で外部講師を招聘して校内授業研究会を行う ○家庭学習の手引きの作成と継続的な指導を行い家庭学習の習慣をつける	○全教員が1回以上、算数科で外部講師を招聘して校内授業研究会を行う ⇒児童質問紙：「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」（以上全国）、「不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか」（県）肯定的回答全国以上	○全教員が1回以上、算数科で外部講師を招聘して校内授業研究会を行った。回を重ねる中でそれまでに出てきた課題を意識することが弱かった。 ○児童質問紙【6年】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」全国-13.7P、「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」全国-32.9P、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」全国+1.5P、「不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか」全国+3.0P【4年】、全国+3.0P【5年】	B	④ 視点を決めて振り返りをさせる等の工夫を行い、学びを調整する力や自己評価能力を高める。 ⑤ 個別最適な学びをめざして、授業・加力指導での個に応じた手立て、タブレットの活用を進める。 ⑥ 児童の疑問や必然性を大事にし、「習う」から「学ぶ」への授業観の転換を図る。		
		○タブレット端末を利用して、個別学習や協働学習の充実を図っている	○タブレット活用の実践交流を定期的に行う ⇒生徒質問紙、学校評価アンケート等	○（学年に応じて）授業で週3回以上タブレットを活用している	○どの学年も平均すると授業で週3回以上タブレットを活用できている。東部教育事務所から講師を招聘しての校内研修を実施した。活用方法についてはまだまだ研究の必要がある。	B			
豊かな心や感性の育成	心豊かで思いやりのある児童の育成 ① 全国調査児童質問紙「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答、全国平均値+5.0P以上 ② 不登校児童のうち、前年度と比較して欠席日数が減少した人数や割合が増加している	○全国調査児童質問紙「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答、全国平均値以上	○生徒指導の三機能を生かした教育活動特別活動の工夫、縦割り班を活用した活動の実施 ○道徳授業公開や人権参観日の実施、「高知の道徳」を使った家庭・地域との連携 ○道徳意識調査：年2回の実施 ○キャリアシートを活用したキャリア教育の実施 ⇒ ○全国学力調査児童質問紙調査 ○学校生活アンケート	○全国学力調査児童質問紙調査：自尊感情・規範意識の肯定的回答全国平均値以上 ○学校生活アンケート「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の肯定的回答90%以上	○いろいろな場面で縦割り班を活用した活動を実施できた。 ○道徳授業公開や人権参観日の実施はできた。道徳意識調査「家の人と道徳の話をしたり、高知の道徳を読んだりしている」69% ○児童質問紙調査「自分には、よいところがあると思いますか」【6年】全国+10.2P、【5年】全国+30P、「自分のいいところを、いくつか言えますか」【4年】全国+20P ○児童質問紙調査「将来の夢や目標を持っている」【6年】全国-14.8P、【5年】全国+14P、【4年】全国+13P ○児童質問紙調査「学校の規則や、クラスで話し合っ て決めたことを、守っていますか」【5年】全国+12P、【4年】全国+13P ○学校評価アンケート「進んであいさつができてい る」【児童】93%、【地域】100%、【保護者】93%、【教職員】67% ○学校生活アンケート【全校】「学校が楽しい」100%、「みんなで何かをするのは楽しい」100%	A	①学校をあげて不登校やいじめ防止に取り組む、ボイスシャワーや肯定的な評価、個に焦点をあてた支援を継続する。 ②学校全体で仲間づくりや児童ひとり一人を大切に した指導を継続し、受容的で温かい雰囲気のある学校・学級づくりを目指す。 ③生徒指導の三機能を生かした授業づくりや特別活動 を積極的に進める。 ④ 道徳の校内研修会を実施し、教材解釈力や指導力を 高める。 ⑤通常学級に在籍する配慮が必要な児童の継続的な支 援と「個別の指導計画」による進捗状況管理を行う。 ⑥「高知の道徳」や道徳日より、学級日よりなどを活 用し、家庭で道徳の話が出るように、家庭と連携した 取組を進める。 ⑦読書指導年間計画に基づく指導を徹底し、読書指 導の時間を確保するようにする。 ⑧地域協働活動として、保護者や地域の方による読 み聞かせを行う。	学習発表会は久しぶりに地域の方が参加できてよ かったが、児童は1人参加できていなかったという指 摘があった。 不登校の1名であるが、体育館後方や出入り口付近 で見ることができた。この日、交流学級の友達の関 りもあって、初めて休日に登校することができ、行 事に参加することができたことを報告した。	A
		○不登校児童のうち、前年度と比較して欠席日 数が減少した人数や割合が増加している	○QU調査の実施と分析 ○通常学級に在籍する配慮が必要な児童全員の「個 別の指導計画」の作成と継続的支援の実施 ○OSC等を活用した校内支援会の実施	○QU調査の実施と分析（年2回） ○通常学級に在籍する配慮が必要な児童全員の「個 別の指導計画」の作成100% ○OSC等を活用した校内支援会の実施：年間10回 以上 ⇒前年度と比較して欠席日数が減少した人数や割 合が増加している	○QU調査の実施と分析（年2回実施） ○通常学級に在籍する配慮が必要な児童全員の「個 別の指導計画」の作成100% ○OSC等を活用した校内支援会の実施：年間12回 ⇒前年度30日に迫るぐらいの欠席があった児童の 欠席が一桁に減った。不登校児童数は1名（昨年 度までから継続）	A			

健康な体と心の育成・安全管理	児童が健康・安全に過ごせる環境・体制づくり	○全国体力・運動能力調査：体力合計点全国平均以上 ○高知県体力・運動能力、生活実態調査：体力合計点県平均以上	○「わたしたちの体育」「こうちの子供体力・運動向上プログラム」の活用 ○2回目の体力テストの実施（50m、反復横跳び） ○特活と関連付けた体育集会、体育的行事の実施 ○縄跳び検定カードの活用	○「わたしたちの体育」の活用90%以上 ○年間を通しての朝運動場5周走及び持久走大会に向けた取り組み ○学校評価アンケート「体育が好き」「運動が楽しい」90%以上「体育の授業などを工夫している」80%以上 ⇒全国体力・運動能力調査：体力合計点全国平均以上 ⇒高知県体力・運動能力、生活実態調査：体力合計点県平均以上	○「わたしたちの体育」の活用75% ○持久走大会に向けて朝運動場5周走を行ったが、年間を通しての取り組みにはなかった。 ○学校評価アンケート【児童】「体育が好き」93%、「休み時間や家に帰ってから運動するように心がけている」83% 学校評価アンケート【教職員】「体育の授業などを工夫している」83% ⇒全国体力・運動能力調査：体力総合評価【5年男子】全国+3.4P、【5年女子】全国+5.2P ⇒高知県体力・運動能力、生活実態調査：体力合計点 集計中 ⇒2回目の体力テストの実施【全校】50m走1回目ー0.51秒、反復横跳び1回目+2回	A	B	①体育年間指導計画に基づく指導を徹底する。 ②「わたしたちの体育」を使って、体育授業の改善を進める。 ③水泳や縄跳び、一輪車について検定カードを使って、児童の意欲化を図りながら運動の楽しさを感じさせる。 ④ 外遊びを働きかけ、日常的に運動する習慣や運動の楽しさを感じさせる。 ⑤体力テストと関連した運動を取り入れた体育集会を行う。 ⑥生活リズム調査を学期始めに行い、家庭と連携した個別指導を強化する。保護者への啓発の機会（PTA 総会での講演等）を設ける。 ⑦ 来年度も栄養教諭による食育指導を行う。	保護者の立場からの意見として、携帯を持たせているが、寝るように言ったらやめて寝る。持たせることが悪いのではなくて、使い方が大事だと思うという意見だった。 決まりを決めることが大事。中学校になってからでは聞かなくなる。 PTAでも取り組んでいく必要がある。	B
		○生活リズム調査の点数が向上している	○1日ごとに保護者、養護教諭と連携した生活リズムチェックの実施 ○「いおきっこノーメディアデー」の実施 ○食育の家庭・地域と連携した取り組み（給食試食会、地域人材を活用して調理実習）	○1日ごとに保護者、養護教諭と連携した生活リズムチェックの実施⇒学期に1回以上 ○学校評価アンケート「望ましい生活習慣を身につける取り組みをしている」85%以上 ○食育の家庭・地域と連携した取り組み2回以上 ⇒生活リズム調査の点数が向上している	○1日ごとに保護者、養護教諭と連携した生活リズムチェックを各学期に1回行った。 ○学校評価アンケート【教職員】「望ましい生活習慣を身につける取り組みをしている」100%、【保護者】「学校は、子どもたちに生命や健康の大切さを理解させ、望ましい生活習慣を身につける取り組みをしている」93% ○食育の家庭・地域と連携した取り組み4回（1年、2年、5・6年、全校） ⇒生活リズム調査の点数は、学年による違いはあるが、全体的に1学期よりも低下傾向にある。メディアの使用時間、就寝時刻に問題がある。	B				
開かれた信頼される学校づくり	地域・保護者に信頼される学校づくり	○「児童が自らの命を守るために必要な知識・技能を身につけている」、災害時に「一人で避難できる」：肯定的回答85%以上	○南海トラフ地震や台風・大雨、土砂災害等について、発達段階や地域の特性に応じた防災教育を行っている ○避難訓練、防災の授業の実施 ○「高知県安全教育プログラム」の活用	○南海トラフ地震や台風・大雨、土砂災害等について、発達段階や地域の特性に応じた防災教育を行っている ○避難訓練年間5回以上、防災の授業5時間以上 ○「高知県安全教育プログラム」の活用率100% ⇒「児童が自らの命を守るために必要な知識・技能を身につけている」、災害時に「一人で避難できる」：肯定的回答85%以上	○南海トラフ地震について、発達段階や地域の特性に応じた防災教育を行った。 ○避難訓練年間7回、防災の授業5時間以上実施できた。 ○「高知県安全教育プログラム」の活用率75% ⇒学校評価アンケート：【児童】「先生は、みんなが安全な学校生活が送れるよう気を配っている」100%、「学校は、子どもたちが安全に過ごせるよう安全指導や施設の安全点検、避難訓練等に取り組んでいる」【保護者】97%、【地域】91%、【教職員】「学校は、危機管理を徹底し、安全な学校づくりを進めている」83% 避難訓練の振り返り【全児童】「ゆれている時、安全な場所で身を守ることができましたか」93.1%、「周りの状況を見て避難することができましたか」89.7%、「助け合い、声をかけ合って避難できましたか」79.3%	B	B	① 保護者・地域に積極的に情報発信する。（学級通信：月2回以上、学校だより月1回以上） ② すぐー等を積極的に活用する。 ③ 学校運営協議会と地域学校協働本部事業の連携を深め、見守り活動や地域協働活動に積極的に取り組む。 ④ 総合的な学習の中に地域について学習することを位置づけ、伊尾木地区の後継者の育成に取り組んで行く。（3・4年は伊尾木洞、5・6年は銭太鼓+伊尾木地区のリーダーに学ぶ） ⑤ 地域貢献の取組として、地域行事に積極的に参加する。	「地域あつての学校、学校あつての地域」を合言葉によく取り組むことができた。東部地区の研修会でも評価された。 1日先生で時計を作ったと聞いた。来年度も文化祭への出品に協力してもらいたい。 伊尾木小には放課後児童クラブがないが、それに代わるものとしての「あきっ子クラブ」を献身的に運営してくださっており、子どもたちが生き生きと参加している。	A
		○学校と地域の連携・協働による教育活動の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進するとともに、幅広い地域住民等の参画を得て地域全体で児童を見守り育てている	○民生委員定例会への参加、学校運営協議会の開催、地域と連携した見守り活動や地域協働活動の実施 ○総合的な学習の時間の中に地域についての学習を位置づける ○地域貢献の取組として、地域行事に積極的に参加する OPTA主導による夜間避難訓練を地域を巻き込んで実施する	○民生委員定例会への参加、学校運営協議会の開催（年6回）、地域と連携した見守り活動や地域協働活動の実施 ○総合的な学習の時間の中に地域についての学習を位置づける（3・4年は伊尾木洞、5・6年は銭太鼓） ○地域貢献の取組として、地域行事に積極的に参加する OPTA主導による夜間避難訓練を地域を巻き込んで実施する⇒年間3回	○民生委員定例会への参加、学校運営協議会の開催（年6回）は計画通り実施できた。避難訓練の見守り、田植え、イモ植え、田畑の管理、砂場の掘り起こし、愛校作業、稲刈り、イモ掘り、餅つき等々地域と連携した見守り活動や地域協働活動を実施できた。 ○総合的な学習の時間で、3・4年は伊尾木洞、5・6年は銭太鼓について学習した。 ○伊尾木洞の清掃、防災訓練、地区民運動会、芸能祭、文化祭への出品、ふれあいサロン（予定）に参加した（敬老会、こども神輿は中止）。 OPTA主導による夜間避難訓練を地域を巻き込んで年間3回実施した。参加人数も増加した。	A				